

医療トレーサビリティ確立（美代班）・第1回班会議 議事録

- 日 時：2020年6月23日（火） 10:00~12:00
- 場 所：国立国際医療研究センター（NCGM）研修棟4階第一会議室 ※WEB会議併用
- 出席者（敬称略）：美代賢吾（NCGM）、植村康一（GS1）、大原信（筑波大）、折井孝男（NTT 東日本関東病院）、笠松眞吾（福井大）、近藤克幸（秋田大）、高橋弘充（東京医科歯科大）、武田理宏（大阪大学医学部附属病院）、藤田英雄（自治医大）、前川ふみ（GS1）、井高貴之（厚労省）、笹琢磨（厚労省）
- オブザーバ参加団体（敬称略）：医機連（高田耕一郎）、JAHIS（西山喜重・山内俊幸）、JAHID（冨木隆夫）、MT ジャパン（高田耕一郎）、AMDD（河合誠雄）、JAISA（白石裕雄）、@MD-Net（田村雄一郎）、日本 SPD 協議会（松本義久）（なお、正式な手続き前の団体においては、暫定という形で参加いただいている）
- ライブ配信による傍聴者 17名

●議事詳細：

1) 厚生労働省医政局 医療情報技術推進室 井高室長補佐 挨拶

- ・厚労省としても医療安全や業務効率化の観点から大変重要な研究だと認識している。
- ・電子カルテの標準化においては課題が多いが、是非とも標準仕様や手順書の作成など、具体的で全国規模で実現可能な提案を期待している。

2) 委員自己紹介

3) 研究趣旨について（美代）※詳細は別資料参照

- ・医療機関・業界が、自らバーコードの活用を進めていくことを目指し、導入の効果や実運用に即した電子カルテの機能などを検討し、電子カルテの標準仕様や導入手順書の作成を行いたい。

4) バーコード・RFID 活用に関する国内外の動向について（植村）※詳細は別資料参照

- ・医薬品のバーコード表示は各国で進められているが、多くの国では偽造品混入防止、リコールの迅速化の目的で、箱単位への表示にとどまっている。
- ・これに対し日本は、患者安全を目的とし調剤包装への表示まで行っており、この点先進的であると言える。
- ・医療機関での活用については、医薬品、医療機器ともに各国でも日本と同様に課題を抱えているが、中には先進的な取り組みをみせる国、医療機関もある。
- ・GS1 標準の RFID 導入に関して、医療業界としての取り組みが行われるのは日本が初めてである。

5) 今後の進め方

- ・2020年9月頃までをめぐり、ユースケースごとの活用検討を行う。
- ・各医療機関での電子カルテの機能性や利用状況を調査する。（可能であれば訪問調査）
- ・ユースケースごとの電子カルテの必要機能、およびその実現可能性について関連団体の協

力を得ながら整理する。

6) 各先生方からのコメント

- ・参加する業界団体が医療機器関連に偏っていないか？（事前質問）

⇒今後、医薬品関連の団体へも声掛けするか、検討したい（美代）

- ・病院のシステムは止められない。現状、様々なローカルコードが利用されている中で、GS1以外のコードをどのように整理していくのか？（高橋）

⇒巨大な統一マスタを作成は難しい。NCGMでは、GTINをキーとして利用している。実際に製品に表示されているGTINに、他のローカルコードを紐づけて管理を行うのが現実的だと考えているが、医薬品の場合に妥当なのか、他の施設でどのようにしているのかも調査していきたい。マスタ管理の手間を省く手段も合わせて検討したい。（美代）

- ・調査対象が、電子カルテのカスタマイズ化が進んでいる大学病院に集中しているが、日本全体の動向を知るためにはノンカスタマイズの一般病院への調査も行うことが望ましい。

（近藤）

⇒先生方のご協力をいただきながら、ノンカスタマイズのパッケージについての調査も行いたい。（美代）

- ・仕入れから現場まで一気通貫する業務について、医療機関内での責任の所在が明確ではないことが、バーコード活用が進まない一因だと考える。誰が担うのか、という観点も考慮すべき。（大原）

⇒トータルで回していく体制も当然必要。今後作成する手順書に含めていきたい。（美代）

- ・技術面だけでなく、トップダウンでの施策面での取組みも合わせて必要だろう。国内版GUDIDのようなものがあるのもいいのではないかと（笠松）

⇒大所高所からの検討が必要と考えている。海外の事例も参考にしながら検討したい。

（美代）

- ・システムの配備と同時に、作業員目線でのメリット提示も大切である。（武田）

- ・本研究は、病院として解決すべき課題にも合致する内容である。実施に当たっては、本来は全プレイヤーに対して利益あるものでなくてはならない。そういった観点も考慮すべきである。（藤田）

⇒誰かのために誰かが泣くような仕組みは長続きしない。三方よしの視点で進めていきたい。なお、藤田先生や近藤先生からは病院の管理者の立場としても今後意見をいただきたい。（美代）

- ・バーコードを利用すればすべての問題を解決できるわけではないため、AIやGTIN、RFIDなどを、それぞれ得意なところでうまく活用できるとよい。（前川）

- ・医療現場における取組みにおいて必要となる要素について、厚労省として推進するお手伝いのできるのであれば是非進めていきたい。（井高）

7) 次回会議について

- ・7月下旬～8月上旬で開催予定。別途日程調整を行う。

- ・各ユースケースにおけるバーコード活用の可能性、課題などについて、先生方から意見をいただく場としたい。

- ・オブザーバ参加の関連団体の方々も、紹介させていただく予定である。

以上